

「平成十一年度大会シンポジウム」特集・丸山思想史学の地平

シンポジウム「丸山思想史学の地平」について

大隅 和雄

丸山眞男氏の逝去に前後して『丸山眞男集』『同座談』『同講義録』、また『自己内対話』など氏の思想と学問を窺う基本的な資料類が刊行されてまいりました。これと並行して雑誌論文や新聞評論、単著など色々な形で相当数の関連文献が発表され、丸山リバイバルとでも言うべき状況が見られます。しかし他方で、丸山自身が「本店」と述べた日本（政治）思想史関連分野の研究に関しては、氏の業績を本格的に取り上げて論じた試みが必ずしも多くはないように見受けられます。

こうした中で日本思想史学会大会運営委員会としては、「丸山思想史学の地平」を統一テーマに掲げ、気鋭の研究者からご報告を受け、討議することで、丸山思想史学の理解に資することが時宜を得たことだと考えるに至りました。

ちやうど東京女子大学では丸山家から図書・手稿類の寄贈を受け、図書館内に丸山眞男文庫を設置いたしました。現在、研究者への公開に向けて準備中であり、大会中に関係資料の一部を展示いたします。

今回のシンポジウムでは、午前の部で、『講義』の最終段階で形を取るに到った氏の日本政治思想史学の全体像を、古代・中世・近世の三時期にスポットを当てて具体的に取り上げていただき、午後の部では、丸山思

思想史学の方法、近代日本精神批判の方法、知識人丸山における思想と学問の交錯など主に「方法」に重点を置いて検討していただく予定であります。

これらの報告とその後の討論によって、人々の関心が必ずしも十分に向けられていない丸山氏の「本店」の領域に関して、共通の理解が深められ、日本思想史研究の一層の発展に資することができれば幸いです。

(東京女子大学教授)

※シンポジウム「丸山思想史学の地平」は、一九九九年一〇月三十一日、東京女子大学で開かれた。ここに収めたのは、当日配布された「要旨集」にのせられた報告者諸氏の報告素案である。日本思想史学会では、当シンポジウムの意義の大きさを考え、報告者・討論者のご協力をえて、シンポの成果を、一層発展させた形で単行本として世に問うことにした。ペリカン社より二〇〇一年秋の刊行予定である。シンポジウム当日の記録も、その要旨が、付録として単行本に掲載されることになっている。経過をお知らせするとともに、読者の方々のご支援をお願いしたい(会員の皆さんには、追ってご連絡します)。

——一九九九年大会運営委員会